

# 介護予防事業について

議案第2号 資料

第7期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート(自立支援、介護予防、重度化防止)

第7期介護保険事業計画に記載の内容		
現状と課題	第7期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)
<p>地域住民による通いの場「お達者サロン」は、平成28年度から社会福祉協議会を通じ運営に対して支援をしている。平成30年4月現在のサロンは、19個所で展開している。</p> <p>地域ケアチーム会議を中心に、地域リハビリ部会を設置し、医療・福祉・介護の連携により、介護予防活動から介護保険サービス提供までの切れ目のないサービス提供体制を構築する必要がある。</p> <p>平成29年度のリハビリテーション専門職の介護予防活動への関与回数：13回</p> <p>地域内のリハビリテーションに関する専門職（PT、OT、ST）の人的資源が少なく、職能団体としての活動もない。また、専門職を各サロン、介護予防教室などに派遣依頼をする場合、調整に苦慮することがある。</p>	<p>一般介護予防事業の推進</p> <p>地域介護予防活動支援事業の推進</p> <p>地域リハビリテーション活動支援事業の推進</p>	<p>住民に地域リハビリテーションの必要性を理解してもらい、住民主体の運営による体操教室の立ち上げを支援し、住み慣れた地域での通いの場を充実させる。</p> <p>地域における介護予防の取り組みを強化するために、事業者やリハビリテーション専門職の住民主体の通いの場等への専門職の活動派遣に対し共通理解を深め専門職を活かした介護予防を推進する。</p>
H30年度(年度末実績)		
実施内容	自己評価	課題と対応策
<p>・リハビリテーション専門職の介護予防活動関与回数(活動派遣回数) 平成30年度目標：20回/年 平成30年度実績：25回/年(市内6施設に依頼)</p> <p>住民主体の運営によるつどいの場であるため、地域密着を意識し、基本的に地元の医療機関・介護施設所属のPT・OTを講師として依頼して、関与していただくよう設定した。</p> <p>・住民主体の運営による体操教室の開催 平成30年度目標＝1箇所 平成30年度実績＝1箇所(3回コース)実施</p> <p>・評価としてロコモ度テストを予定していたが、会場の都合で実施できなかった。参加者にアンケートを実施し、満足度や体操の定着度や事業の継続実施について調査した。</p>	<p>○</p>	<p>・リハビリテーション専門職の介護予防活動関与回数を増やしていく。</p> <p>・リハビリテーション専門職の活用方法について、地域ケアチーム会議の地域リハビリ部会で検討する。</p> <p>・地域ケアチーム会議を活用し、地域リハビリテーション事業の体制整備を推進する上で、地域包括ケアにおける医療・介護連携における多職種連携について検討する。</p> <p>・体操教室の開催場所・回数を増加させていく。</p> <p>・体操教室のアンケート結果では、リハビリ教室の内容では9割が理解できたと回答があったが、自宅での継続実施については54.2%であった。通いの場だけでなく、自宅でも継続的に取り組める内容も盛り込んでいく必要がある。</p> <p>・体操教室継続の意欲に関しては、79.1%が今後も継続と回答しているが、継続と回答する割合を今後もっと引きあげていく。</p> <p>・評価には、参加者からの主観的な意見の集約に加え、数値的に評価できる項目を設定していく。(例：ロコモ度テストの立ち上がリテストだけでも追加していく。)</p>

**第7期介護保険事業計画に記載の内容**

現状と課題	第7期における具 体的な取組	目標 (事業内容、指標等)
<b>R1年度(年度末実績)</b>		
実施内容	自己評価	課題と対応策
<p>・リハビリテーション専門職の介護予防活動関与回数(活動派遣回数) 令和元年度目標:25回/年 令和元年度実績:13回/年(市内4施設に依頼) H30年度は、25回の実績が今年度は、台風被害と新型コロナウイルス対応で、実績が伸びなかった。</p> <p><b>【住民主体の運営による体操教室の開催】</b> 令和元年度目標=2箇所 平成30年度実績=3箇所(2~3回コース)実施 ・従来の高齢者サロンに加え、今年度は認知症カフェでも実施した。参加者69名へアンケートを実施した。参加者内訳では、男女別では、88.4%が女性で、年齢層は、70代以上が84%を占めた。教室の内容に対する理解では、全体の89.6%はわかったと回答、今後も自分たちで続けたいとその場では79.7%の回答があったが、教育後、自宅での実施状況は47.8%、資料活用度も43.5%と低かった。</p> <p><b>【地域ケアチーム会議】</b> ・地域ケアチーム会議の委員に、リハビリ専門職として理学療法士を委員委嘱し参与いただく。 ・リハ部会の代表へ体操教室の体制についてヒアリングを実施した。</p> <p><b>【高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施】</b> ・フレイル対策では、令和2年2月に、講師に東京大学高齢社会総合研究機構:高橋 競氏を招き、市職員、高齢者施設職員向けに、「フレイル勉強会」を実施した。 ・多職種連携により重度化を防止する施策や企画立案・調整を目的に、市役所の関連部署の枠を超えて検討する場を設定し「健康寿命延伸プロジェクトチーム」発足に向けての準備。</p>	△	<p>・リハビリテーション専門職の介護予防活動関与回数を増やしていく。台風被害後の活動では、カビ対策等の健康教育と避難所でのエコノミークラス症候群予防を中心としたリハビリの教育を盛り込みすすめた活動は、今後も、地域包括ケアの中で、災害等の対応と共に、平常時から災害時に向けてJRATとの連携や台風や感染症対応の中で、可能なリハビリ対策の内容を模索していく必要がある。</p> <p><b>【住民主体の運営による体操教室の開催】</b> ・体操は、教室開催中には取り組むが、終了後、自宅での実施率が低い。従来の教室は実施回数を2~3回と設定してきたが、参加者から、常時開催し、いつでも気軽に参加でき、リハビリ専門職への相談の場や仲間づくりとしての活用についての要望があった。次年度にむけて、実施体制(回数・実施時間帯等)をリハ部会で検討が必要である。 ・フレイル対策でのサポーターやトレーナー養成については、地域包括ケアの中で、サロン活動やインセンティブを意識したポイント制度等、地域づくりとともに推進していく。</p> <p><b>【地域ケアチーム会議】</b> ・地域ケアチーム会議の地域リハビリ部会で検討する。</p> <p><b>【高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施】</b> ・効果的な施策展開に向けての話し合いの場のあり方を検討する。</p>
<b>R2年度(年度末実績)</b>		
実施内容	自己評価	課題と対応策
<p>・リハビリテーション専門職の介護予防活動関与回数(活動派遣回数) 令和元年度実績:13回/年 令和2年度目標:35回/年 介護予防の取り組みは、新型コロナウイルス対応や台風等の被災の状況下でも、災害対策と連動した内容も考慮しながら、状況に応じて可能な取り組みについて模索する。</p> <p><b>【住民主体の運営による体操教室の開催】</b> 令和元年度実績 3箇所 令和2年度目標 3箇所</p> <p><b>【地域ケアチーム会議】</b> 地域ケアチーム会議のリハビリ部会で、住民が主体的に継続して実施できるようリハビリ専門職の関与について、回数や実施時間帯等の体制も含めて検討していく。</p> <p><b>【高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施】</b> ・健康寿命延伸に向けた企画・立案、推進体制について、健康支援課・保険年金課と、課・係を超えた連携を図るための体制について検討する。</p>	△	

※自己評価(達成率) ◎:80%以上、○:60~79%、△:30~59%、×:29%以下